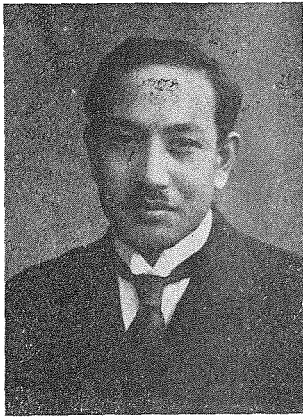


久しぶりの工學博士二人



東京工業大學教授
工學博士 小林政一氏

工學博士 小林政一氏

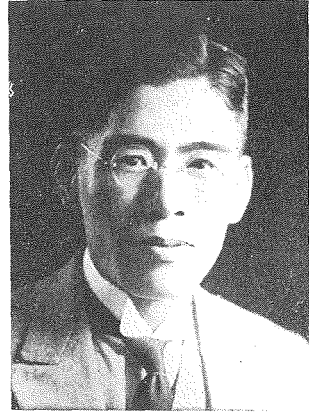
○
小林氏の學位論文は『明治神宮外苑建築工事に就て、主として運動設備につき論ず』と云ふものである。

○
神宮の外苑に一步を踏み込めば誰でも近代的な或清々した崇嚴さを感じる。それはあの記念繪畫館、道路、競技場其他總てが調和のある統合技術であるからで、小林氏は其所に在つた神宮造營局の外苑工事詰所の中に相當永い技術生活をして居られた。今日の論文は其當時既に組織だてられたものと思はれる。

○
東京の帝大では混凝土の研究は建築科の方も中々優勢である。特に合理的工法に就ては佐野利器博士は常に率先して自費を割いて後進を指導し、又全國各方面の混凝土學者と協議運動なきされてゐる。小林氏の如きも常に之に參割されてゐた。

○
日本全國の近代的スポーツ精神は今日では總てが神宮外苑に發揮される事になつた。今後此所に集まる程の幾億萬人の青年が永久に小林博士の人格的な技術の感化を享くるものと思へば、論文の内容も益々意義あるものである。

○
東京高等工業學校が本年から東京工業大學に進んだ際、其建築科長に小林博士を得た事は最も喜ばしい事である。



鐵道省研究所技師
工學博士 田中 豊氏

工學博士 田中 豊氏

○
田中豊氏の印象は大正十二年の大震災に對する帝都復興事業中の橋梁設計に關する點にある。復興局に於て氏は橋梁課長として隅田川六大橋を初めとし無數の設計案を達成した

○
新潟市の萬代橋は地方橋として最も大なる美觀を有する混凝土アーチ橋で目下工事中であるが、之は田中氏の經濟的設計になつたものである。東京地下鐵道の第二期工事たる上野萬世橋間の構築工事の主體も田中氏の設計に依り大に經濟的に出來てをる。云ふ事は既に本誌上でも紹介された事である。

○
最近では土木建築の基本問題たる泥土の性質研究に着手する事になつて斯界から注目されてゐる。

○
今回の學位論文は『變斷面を有する柱材の強度に就て』と云ふのであるが、近頃新聞などで報道されてをる光彈性試験器の考案も氏の學位論文からの産物であらう。

○
田中氏は大正二年の東京帝大の土木出であるが、目下は鐵道省研究所の第二課長と東京帝大工學部の教授を兼てゐられる。氏の如き研究的な新人が次第に實力を發揮される事は邦家の爲めに又世界學界のために祝福すべき事である。